

第1回 彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

日 時 令和元年(2019年)7月19日(金) 10:00～

場 所 彦根勤労福祉会館 3階 中ホール

○地域経営・地方創生推進室長

定刻となりましたので、ただいまから、第1回彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を開催させていただきます。

それでは、早速ですが、議事に先立ちまして皆様方に、市長から、協議会委員の委嘱をさせていただきますと思います。

(市長から委嘱状交付)

○地域経営・地方創生推進室長

初めに、市長よりご挨拶を申し上げます。

○市長

改めまして、皆様こんにちは。大変お忙しいところ、またお足元の悪い中ご参集をいただきまして、誠にありがとうございます。そして皆様方には、引き続きまして推進協議会委員をお受けいただいたこと、心からお礼を申し上げます。

平成27年に、この地方創生という大きな流れがつけられて、人口減少社会にいかに対応していくかということについて、国内の自治体が競って取り組みを進めてきたところがございます。PDCAサイクルをしっかりと回しながら、皆様方に助言をいただきながら進めてきたところがございます。今年度が第1期総合戦略の最終年ということになったところがございます。おかげさまで彦根市におきましては、人口が全国で減少傾向にある中で、若干増加としております。これもこうした地方創生の大きな流れの中で、市役所の職員はもとよりであります。皆様方のお力添えによりまして進めてこれたものと、改めて心から敬意と感謝を申し上げます。しかし、これからがまた正念場だと思っております。人口増の主な要因というのは、外国籍の方ということも聞かせていただいております。いかにこの共生社会をつくっていくかということも課題でありましょうし、産業構造がスピード感をもって変わってきている。さらに産業界での人手不足とい

う、全体に人手不足が深刻化しているということもございます。こうした中で、まちの魅力をいかに高めていくかということが、さらに課題となってきたと思います。引き続き皆様方のお力添えをお願い申し上げたいと思っております。

限られた時間ではございますが、どうぞ闊達なご議論を頂戴したいと思っております、よろしく願い申し上げます、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

○地域経営・地方創生推進室長

お手元に、資料1、彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会設置要綱というものをお配りしておりますけれども、この設置要綱の第6条第2項に、協議会は委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないという規定がございます。

本日は、後ほどお越しになる予定の委員を含めまして、7名ご出席の予定ですので、会議が成立しますことをここにご報告いたします。

それでは、本日の議題に入ります前に、ただいまの要綱の第5条第1項に、協議会に会長を置き、委員の互選により定めるという規定がございますことから、会長の選出をしていただく必要がございます。

(会長選出)

○地域経営・地方創生推進室長

それでは、会長から、一言お願いいたします。

○会長

ただいま、皆さんから会長にご推挙いただきまして、ふつつかでございますが、また頑張って務めさせていただきたいと思っております。

彦根市が、まち・ひと・しごと総合戦略を推進されておりました、それを評価するというところでございますけれども、本年が第1期総合戦略の最終年ということで、その実績を、今後、第2期総合戦略へにつないでいくということも議論しなければならないと聞いております。地域が元気にならないと、日本としてはどうしようもないということになりますので、我々自身が、身近な地域でどのように活性化できるかというのが一番基本かなと思います。委員の皆さんの活発なご意見を頂戴して、さらにもり立てていき、実効性のあるプランにさらに進めていければと思いますので、有意義な機会となりますよう皆さんのご協力をお願いして、私からのご挨拶をさせていただきます。

○地域経営・地方創生推進室長

それでは、ここからは会長に、議長として進行をお願いしたいと思います。

○会長

本日は、第1回目でございますので、まず事務局から、本協議会の運営等についてご説明をいただければと思います。

○事務局

それでは、本会議の運営方法や役割についてご説明いたします。

資料1をご覧ください。

こちらは、協議会の設置要綱でございます。本協議会の役割といたしましては、第2条をごらんいただきますと、総合戦略の策定および変更に関する事、総合戦略の成果の検証に関する事、その他、人口減少対策および地域活性化に必要な事項に関する事でございます。

総合戦略を進めるに当たりましては、PDCAサイクルによる評価および見直しを行うことで、より効率的かつ効果的なものとなるようにする必要があります。その評価と見直しについて、このたび皆様をお願いさせていただきますとともに、今年度につきましては、第2期総合戦略の策定を行いますことから、第2期総合戦略に対するご意見についても、頂戴したいと考えているところでございます。

第5条第1項をごらんいただきますと、会長については、先ほどお決めいただいたところでございまして、続きまして、第5条の第3項に、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、あらかじめ指名する委員がその職務を代理するとございますので、職務代理人について、ご指名をいただきますようお願いいたします。

○会長

ただいま事務局のほうから説明がございましたが、何かご質問等ございますでしょうか。

ないようでしたら、資料1の要綱第5条第3項の会長に事故あるときはというのは、説明があったとおりでございます。私のほうから、職務代理人を指名させていただきたいと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

(職務代行者指名)

○会長

それでは、引き続きまして、本日の議題3つございますが、その一つ目、年間スケジュールについて事務局から説明をお願いできればと思います。

○事務局

それでは、年間スケジュールについて、ご説明をさせていただきたいと思います。

まず、資料2-1をごらんください。

本年度は、第2期の総合戦略の策定を行いますことから、昨年度までと若干スケジュールが異なりますので、まずは本協議会関係のスケジュールを抜粋させていただきまして、ご説明いたします。

本日、7月19日は第1回協議会です。本日は、総合戦略の概要を説明させていただいた後、国の地方創生推進交付金を受けて実施した事業について、皆様に評価をしていただきます。通常、本協議会は、施策評価をしていただく機関ではございますが、国の交付金事業に関しましては、個別の事業について、外部から評価を受けることとされているために、お願いさせていただくものでございます。

続きまして、8月23日には、第2回の協議会を開催させていただきたいと考えております。こちらにおきましては、平成30年度に実施させていただきました施策を、皆様にご評価いただきたいと考えております。なお、その評価をいただいたものについては、9月に公表させていただきます。この第2回の協議会については、昨年度までは2回に分けて協議会を実施させていただいたんですけれども、本年度に関しましては、会議を効率化させていただきまして、1回で行わせていただきたいと思いますと考えております。具体的に申しますと、できるだけ早く委員の皆様へ資料を送付させていただきまして、十分ご確認をいただく時間をとった上で、説明を簡潔に行わせていただくことで、実質的な審議時間を確保しながら、効率化を行ってまいりたいと考えているところでございます。

皆様におかれましては、大変ご多忙中とは存じますが、ご理解のほどよろしくお願いたします。

続きまして、11月の中旬になってまいりますと、第3回の協議会を開催させていただきます。こちらに関しましては、8月に皆様からご意見を受けて外部評価をしていただいた結果と内部で検討しました取り組み方針と、第2期総合戦略の素案についても、皆様にご審議をいただきたいと考えているところです。会議では、外部評価を受けて、第2期総合戦略でどのような取り組みを行うのかを説明させていただきまして、委員の皆様からご

意見を頂戴します。

続きまして、2月の中旬には予算発表という形で、まち・ひと・しごと総合戦略の関連事業を発表させていただく予定をしております。なお、総合戦略の策定に当たっては、議会の承認が必要となりますため、2月議会に議案として提出をさせていただいて、ご審議をいただく予定をしております。

本協議会に関しましては、効率化を図りながらも、しっかりと委員の皆様のご意見を頂戴できるよう努めてまいりたいと考えております。また、第2期の総合戦略の策定に当たっては、場合によっては追加で協議会を開催させていただく可能性もございますので、その際は、お忙しいとは存じますがよろしくお願いいたします。

続きまして、資料の2-2および2-3についてご説明をさせていただきます。

資料2-2のほうでございますけれども、まず、市町村の総合戦略の策定に当たりましては、国、県の総合戦略を考慮しながら策定することとなってございまして、現時点では、県のスケジュールが未公表でございますことから、国のみを記載させていただいております。2-2の資料の中で、一番上の行が国のスケジュールというのを示してございまして、まず、国の流れとしましては、総合戦略の骨格となる基本方針を定めた後、検討を進め、最終的に12月下旬に国の総合戦略を策定予定となっております。

本市におきましても、基本的に、この国の流れと同様の流れで策定作業を進めていく予定をしております。すなわち第2期総合戦略の骨格となる基本方針というものを、まず策定いたしまして、それに肉づけをする形を想定しております。

順を追って説明させていただきますと、まず、一番上の行で、国の動きでございますけれども、6月21日に、既に国において基本方針が閣議決定されております。これを受けまして、市の事務局のほうでは、現在、彦根市の基本方針の素案を作成中でありまして、間もなく事務局案を各部会に提出させていただきまして、今後、各部会において、基本方針の素案の検討を行ってまいりたいと考えております。

8月中旬までに、各部会におきまして基本方針の素案の検討を終えまして、8月下旬にはその検討結果を、各関係部長級で構成します本部会議に諮りまして、市の基本方針として確定させていただきたいと考えております。その後、9月から10月にかけて、また、各部会において、基本方針に基づく個別の取り組みおよびKPIを検討させていただきまして、肉づけ作業を行わせていただきます。また、この過程においては、委員の皆様にも、8月に平成30年度の事業評価をしていただきますけれども、そこでいただいた評価を受

けて第2期の戦略の取組、それからK P Iに反映させながら作成していくという形になります。さらに市民のニーズを把握するために、今年度、アンケート調査を実施しますので、その結果ですとか、あるいは市民が参加する会議等での意見というのも踏まえまして、第2期総合戦略の取組みおよびK P Iを作成させていただきたいと考えております。最終的には、各部会の検討結果を踏まえ、事務局のほうで、第2期総合戦略の素案を作成しまして、そこをまた本部会議を経て、11月の中旬に第3回の協議会を開催させていただきまして、第2期総合戦略素案に対して、委員の皆様から意見を頂戴したいと考えております。その後、パブリックコメント等を実施させていただきまして、2月議会に上程を予定しております。

資料2-3に関しては、スキームの図になってございまして、先ほど申しましたように、まず、国の基本方針でありますとか、市の総合戦略の上位計画でございまして総合計画、それから関連する各個別の計画等の内容を加味しまして、基本方針の素案を作成させていただきまして、そちらを部会・本部会で検討させていただきます。その上で、基本方針を確定しまして、そこから、また、さらに部会において主な取組、K P Iの検討をしていただくという形でございます。それを踏まえて総合戦略の素案を作成し、庁内で意見集約、本部会を行いまして、さらに外部の皆様にも、関係機関の意見ということで頂戴いたしまして、パブリックコメントを実施したあと、議会に上程という形をとりたいと考えております。その流れの中で、もう一つ、総合戦略には人口ビジョンというのもございますので、そちらの人口ビジョンに関しましては、順次その数値の見直し等を進めるとともに、それも総合戦略に反映します。それから先ほど申しましたように、市民アンケート調査ですとか、あるいは、さまざまな場を通じまして市民の皆様へ説明させていただきまして、市民のニーズ等も反映させていただいてつくってまいりたいというふうに考えております。

資料2-4に関しましては、平成30年度に実施した評価を受けて、予算化された事業を載せております。

資料2-5に関しましては、平成30年度に実施した評価等を受けまして、総合戦略に修正を加えた一覧でございまして、この内容が反映されたものが、本日お配りしております彦根市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和元年6月改訂版という形になってございます。

資料2-4、2-5に関しましては、第1期の総合戦略におけるP D C Aサイクルを構成するものでございまして、第2期の総合戦略におきましても、これらをベースに検討を

進めてまいりたいというふうに考えております。具体的に、第2期総合戦略におきまして、どのような形式で関連事業をまとめるか、また、外部評価をいかに戦略にフィードバックしていくかは、現在、検討している最中でございますが、総合戦略に基づく事業を各部署が意識しまして、着実に実施していけるよう体制を整えてまいりたいと考えているところでございます。

○会長

それでは、ただいまのスケジュールのご説明について、何かご質問、ご意見ございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

特にご意見もないということですので、次に進みたいと思います。

続きまして、議題2まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について、事務局のほうからご説明をお願いしたいと思います。

○事務局

それでは、先ほど議題1では、第2期総合戦略の策定スキームも含めました、年間スケジュールをご説明させていただいたところでございますけれども、今年度は、第1期の総合戦略の施策の評価等も実施していただきながら、第2期の総合戦略に対する意見も頂戴するという事になってございます。このため第2期総合戦略の検討に当たっても、第1期の総合戦略と比較していただく必要もございます。こうしたことから、今後は踏まえまして、いま一度、第1期総合戦略の概要についてご説明したいと思っております。

お配りしております総合戦略の冊子、まち・ひと・しごと総合戦略の令和元年6月改訂版、ご覧いただきますようお願いいたします。

総合戦略につきましては、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけ、住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある地域社会を維持していくために策定したものでございます。

まず、冊子の1ページをご覧ください。

こちらには、国立社会保障人口問題研究所に準拠した人口推計によりますと、我が国の人口は、減少することが見込まれております。この状況に歯止めをかけるために本市として、総人口10万人、年間出生数1,000人、年間100人の転入を今後も維持していくことを目指しまして、地方創生に向けた基本的な方向性や基本目標をまとめたものが、こちらの総合戦略の冊子でございます。なお、総合戦略の計画期間は、1ページ後段の計画期間にございますとおり、平成27年度から平成31年度までの5年間となっております。

まして、平成31年度となっておりますが令和元年度ですので、今年度が最終年となりまして、来年度、令和2年度、2020年度からの新たな計画を、今年度検討を進めていくということでございます。

次に、2ページをご覧ください。

こちらでは、市の最上位計画であります総合計画との関係について述べておりまして、総合戦略は、人口減少の克服と地方創生を実現するための具体的な施策を定めた計画でございます。総合計画を具現化し補完するものとして位置づけております。なお、総合計画の基本構想におきましても、人口減少社会の到来に際しては、定住人口の減少を極力回避し、交流人口を最大限増加させるという基本方針がうたわれていることから、総合戦略においても、この方針を重視することとしております。

第2期総合戦略におきましても、総合計画と総合戦略の関係とか、あるいは各個別計画との関係は特に変わらない予定ですので、基本的にはこういったことを踏襲しながら、第2期総合戦略も考えていくという形になってまいろうかと思っております。

続きまして、3ページから4ページにかけては、総合戦略を策定、推進していくに当たり、重視した基本的な考え方を示しております。こうした内容に関しましても、第2期の総合戦略において、一部更新をすべき部分もございますので、また、変更をかけてまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、5ページから6ページにかけては、総合戦略の基本的な方向性を示しております。

続きまして、7ページから8ページにかけては、基本的な考え方や方向性をもとに、総合戦略における四つの基本目標というのを掲げております。

9ページ目以降に関しましては、個別の施策と取り組みが記載されているものでございまして、ここに挙げられている取組に関することについて、次回協議会では30年度の実施結果を各部会からご報告いただきまして、委員の皆様にご評価をしていただくということでございます。

○会長

ただいまの総合戦略の概要でございますが、何かご質問、ご意見ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、続きまして、議題3に移りたいと思います。

地方創生推進交付金事業についてでございます。こちらにつきましては、国の交付金を

受けて実施されている事業ということでもございますし、個別に事業の評価をすることになっております。この場で評価をお願いしたいと思います。

それでは、事業の所管からご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○地域経済振興課

平成30年度の地方創生推進交付金を活用いたしました、近江美食都市推進事業についてご説明させていただきます。

まず、資料3の事業計画のほうから説明をさせていただきます。

この事業につきましては、内容、目的にも記載しておりますが、交流人口増加策を継続的に展開するために、観光客が訪れるときに訪問地を選ぶ動機のうち、大きな要素でございます食について、この魅力の強化、充実、発信を図るため、一般社団法人近江ツーリズムボードが実施いたします事業に対して補助を行うものでございます。補助金額としましては919万5,000円でございます。

次に、事業の内容としましては、6つの事業がございます。

まず、地域産品の調査、発掘、評価、これにつきましては、彦根市周辺地域の食材の調査研究および食材提供等による新規マーケットの開発でございます。平成30年度におきましては、近江食材としまして、鮎ずし、地酒、そして近江茶の3種の調査研究を行いました。同時に地域の飲食業界へのプロモーションや新規マーケットを開発するために、条件整備を行ったところでございます。また、昨年度作成いたしました、近江ガストロノミー食食材マップ&カレンダーを活用しまして、重点食材を中心にピックアップしたところでございます。

次に、地域の料理人のための美食料理セミナーの開催についてでございますが、これにつきましては、近江食材の可能性開発そして調理開発と、地域料理人育成のための料理セミナーを開催するものでございまして、一流料理人と地域料理人との交流を促進させまして、一流若手人材の育成、誘致、交流を活性化させるものでございます。

次に、地域産物の料理グランプリの開催につきましては、引き続き、料理グランプリを開催しまして、地域の食のレベルアップを目指すもので、平成30年度は、井伊櫛グランプリ2019を開催したところでございます。

次のDMOによる広報プロモーションにつきましては、料理とともに旅行プロモーション素材として積極的に活用いたしまして、魅力のある彦根周辺地域について情報発信を行

うものでございます。また、その下の地域産品を使用するフードカーの活用および新たなビジネスモデルの構築につきましては、フードカーを活用しました新たなビジネスを構築するもので、平成30年度は、平成29年度と比べまして15倍以上、延べ646台の稼働となっております。

最後に、地域産品による食企画での集客ということにつきましては、彦根城域を活用いたしまして、梅林をテーマとした、食とライトアップを組み合わせました「ひこね梅あかり」を開催し、フードカーによる近江食材を使った食の提供を行い、城内だけではなく周辺地域と一体となった彦根の食文化を提供するもので、これらの事業は平成28年10月から31年3月までの3年間の事業となっております。

次に、KPI指標につきましては、目標年月は平成31年3月でございまして、観光入込客数としましては、年間352万5,000人としております。

続きまして、資料4をお願いいたします。

こちらのほうは、地方創生交付金にかかります事業実施結果ということで、ご報告させていただきます。

KPIにつきましては、先ほど資料3でも申し上げましたとおり、目標値につきましては352万5,000人でございまして、本事業終了後における実績値は、307万3,300人となりました。事業効果としましては、観光入込客数の指標につきましては、目標を下回る結果となりましたけれども、本事業の直接的な効果としましては、料理セミナーの開催、また、フードカーの稼働率の向上のほか、ひこね梅あかり、また、近江美食ガーデンなどのイベントによる、来客数があったのではないかと実感しております。

最後に、実績値を踏まえました事業の今後のことについてでございますが、平成30年度の計画事業に関しましては、全て実施されました。それによって一定の効果はあったものと思われませんが、せっかく開発いたしました近江の食の認知度が低く、食のブランド化のさらなる推進等が必要でありますので、今後も市としましては、支援をしてみたいと考えているところでございます。

○会長

ただいまご説明いただきましたが、まずご質問、ご意見等を踏まえて、いろいろと効果を最終的に行わなければいけないということですが、事務局のほうからは、事業の目標として、設定された総合戦略のKPI、既に有効であったか貢献あったのかも判断するよう求められております。したがって、先ほどの事業の評価という欄に、○か×か

どちらかをつけるということになろうかと思えます。

それと、外部有識者からの意見ということで、この場でいろいろご意見、ご提案を出していただいて、ここに出すかという形で評価がなされるということでございます。どなたでも結構ですので、ただいまの説明について、ご質問ございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

昨年の評価を見とって、フードカーがどうですか、それほど高くなかったという話もございますけど、今回はかなり稼働しているということで、私もまちへ出かけると、よくフードカーを見かけたりしております。ああ、これやったら大丈夫だなと実感した覚えがあります。皆さんから何かご意見、ご質問ございませんでしょうか。

○委員

いろんな部分で努力していただいていることも十分認識をしていますし、私も2年間議論してますので、いろんな意味で結果は出ているという実感はあるんですけども、ただ、外部評価という観点で言うならば、やっぱり、この入込客がこれだけ当初のK P Iに届いてないのに、今後の方針のところ、引き続き側面支援をしていきたいという、ここへの議論はちょっと乱暴過ぎるんじゃないかなと思います。せめてK P Iはこういう形だけでも、この事業自体でこれだけ集客ができたとか、この何年間の取り組みで、今後こういうふうを増やしていける見込みが立ったとか、そういう部分が入ってないと評価ができません。逆にこれで○という評価で、じゃ引き続きやっていきたいと思いますな外部評価になると、何かもうデキレースみたいなイメージになってしまうんじゃないかなと思うので、実績値のところ、そして、今後の期待値のところの補足がもう少しないと、外部評価としては引き続き支援するという説明はできないんじゃないかなと思います。これからこういう事業がこう発展して、これだけ増えていきますとか、この事業自体は人をふやしてたんやけれども、こういう理由で彦根へ来た人が減ったんですとかといった、この事業自体では本当に有効に動いてたという説明が、ちょっとこれでは足りないかなというのが実感のところでは。

○会長

確かに効果のほうは目標を達成できていませんが、ベースができたという感じはするんですけども。

○委員

そこは評価しています。

○会長

入込客数のK P Iに結びついてない。そこの工夫がどう考えるかということがあるように思います。皆様のご意見いかがでしょうか。即効性があることというのはなかなか難しいと思いますね。ただもししっかりと地域の魅力を固めてつくってきたというのは、間違いないかなというふうには思います。先ほど配られた資料を見せていただいて、すごく魅力的に発信ができる形にはなっている。それでいろんな食材を用いて料理講習がされて、地域の魅力がみんなに共有されて、さらにそれがどう全国に発信されて、彦根へ行ってみようというところに結びついてくるかということ、そこが何か、ただ単に支援するか、どういう形のどういうところに支援したら、さらにベースができたところを、さらに盛り立てて発信できる。入込客数なり彦根のにぎわいにつながるというところが、もう少し必要かなという気はしますが、ご意見いかがでしょうか。

○委員

今、県が日本橋のほうに「ここ滋賀」を出していますよね。そこに例えば彦根、この地域の品物がどれだけ販売しているのかなという部分が一つ疑問に思いますね。私も「ここ滋賀」に行ったときに、ひこにゃんの、平和堂さんで売っているエコバックを幾つか持って、あそこの店の方に、私、彦根から来ました言って、それをレジで渡しました。やっぱり、そういうP Rなんかももっと小まめにやって行って、なおかつそこに勤めている方でも、彦根のものをもっとアピールしてもらうような働きかけも必要かと思います。やっぱりそういうところにも力を入れることによって彦根をもっとP Rしていただいて、努力していただければ滋賀にも来ていただける。そして、この東部のほうにも来ていただけるという具合になるんじゃないかなと思います。やっていることは着実に少しずつ前進はしていると思います。しかし、もっとP Rが必要です。一部、今、鮎ずしのお煎餅が出ていますよね、ああいうものはまだ一部の方しか知られていないというふうになりますから、いろんなところでいろんなことを考え、いろんなところにチャレンジされているんですけど、まだそれがもう一つね、広がっていないというところがあるので、もう少し皆さんも目をくまなく開いていただいて、アンテナを広くしてキャッチしていただいて、何が今これから先、皆さんに求められているかなというのをキャッチして、広めていくというものをこの中に入れていくことによって、少しでも集客が増えるんじゃないかなと思います。

○会長

ほかに何か意見ございますか。

○委員

K P Iを352万でしたかね、それが実際には307万だったと、そのところの減った理由といますかね、そういうことがあった分析されてないと、ちょっとこの説明だけでは、不足していると思います。さらに浸透させるのが必要なのはわかるんですけども、実績値がどうあったかというその原因の説明がないと、今後どうするかということにもつながらないかなと思うんです。

○会長

その辺は何か、データか何かお持ちなんでしょうか。例えば彦根に来られた方にアンケートをとって、彦根の何に魅力を感じて来られたかとか。

○事務局

まず、この指標の観光入込客数でございますが、今、総合戦略、冊子のほうでもお配りさせていただいておりますとおり、この15ページに観光入込客数というこのK P Iを載せておまして、平成26年が307万人であったところを、平成31年度には365万人にしようという目標になっております。これは、この食の事業だけではなく、市全体で取り組む結果としての観光入込客数の目標でございます、この観光入込客数の推移を参考までに申し上げますと、平成26年度には300万人ほどでしたんですけども、27年度、28年度につきましては320万人ほどになっております。そして29年度につきましては、国宝・彦根城410年祭を開催しておりましたので、340万人ほどまで増加いたしました。しかしながら、昨年度につきましては、410年祭のあとということもございましたし、かなり台風ですとかいろんな災害等、長雨等もございましたんで、かなりそういうふうな影響をしまして、30年度は市全体として、300万人ほどにまで落ち込んでいるというふうな状況でございます。

○会長

いかがでしょうか。お願いします。

○委員

要はこの事業効果をもっときっちり外部評価するに当たって、それ以外のところで、こういう効果がありましたよということをきっちり列挙していただかないと、そこに一定の数値的なデータ的な理屈づけをしたものがないと、なかなか外部評価はしにくいのかなと思います。

○会長

K P I が入込客数だけだから、これも外部要因、ほかの要因もいっぱい入るわけですね。そこが一番しんどいですね。

○委員

流れであったり、単年度で言えば、こういう理由があって、本来これだけ見込めていた観光客がたまたま最終年度だけは低かったんですよとか、そういう説明があれば、外部評価はできると思うんですけど。

○会長

そこをどう考えるかですね。29年度までは340万人、30年度が307万人で、これががたん落ちたというところが、たまたま気候変動でかなり影響を受けた可能性もあると思います。

○委員

もともとおっしゃるように、K P I の設定に乱暴なところがありまして、入込客というのはいろんな要素で上がったり減ったりします。天候一つで変わりますので、だから入込客は下がっているけれども、その中で、美食の事業自体はコンスタントに5%ずつ右肩上がりになっているとかですね、幾つか要素があるので、本当はそういうものを示していかなければならないと思うんです。それと観光と食というのは、切っても切れない非常に密接なものであると思います。ただ、食の掘り起こしから育てる人、そしてブランド化していくというのは、非常に時間のかかることですので、その意味で、着実に努力はされていると思うんです。そんな中で、食だけが独立してあるわけではありませんので、いろんな要素と絡んできますので、それを協会とか、あるいは周辺の市町等も合せて一緒に盛り上げていくとか、商品化していくとか、そういう広域的な展開が必要です。それと組織的なことも絡んでくるんですけども、やはり後期に向けて見直していくとか、横連携、横串を刺して、新しいメニューをつくっていくということが地方創生の柱ですので、組織的にも、事業の面からも見直しが必要だと思います。

○会長

いかがでしょうか。

○地域経済振興課

委員のほうからご質問ございました、具体的な人数、数値的なもの何かないかということでございました。資料4のところにも書いております。

事業効果の中で、ひこね梅あかりと近江美食ガーデンにおいて、今回の30年、2,590人の来客があったということでございまして、29年度は、1,330人でございしますので、倍率としては約1.9倍ほど、30年は増加したということでございます。ですから、こういったものがどんどん周知されていって、集客につながっているものと考えているところでございます。

○会長

ありがとうございます。

梅あかりと美食ガーデンで1.9倍、その辺はかなり効果があったということですが、KPIそのものが、だから45万人ぐらい減っているんですけども、そこにどれだけ効果があったか効果的に出てくるのかというのが、なかなか難しいところではあります。彦根の魅力を食というところで総合的に出そうというのは、ベースができてきているというのは、かなり評価したいなと私は思っているんですけど。ほか何かございますか。

○委員

ちょっと気になる点というか、すごく冊子もできていて、きれいにつくられていると思うんですけども、実際にこれ3冊目ということなんですが、実際に彦根市に、この近江の食の認知度がまだまだ浸透していないという点でいうと、まず、彦根市民も知っているのかなというのが気になっています。この冊子自体も、作られているけどどこに置かれているのかがちょっとわからないとか、見たことがある人がどれだけいるのだろうかということと、それに実際にこれぐらい食のものがあっても、それを使って実際に店に出そうと思う人が、後ろには載っているんですけども、もっと広く認知されれば、これに参画する店が増えるんじゃないかなというふうには思いますし、そうすると、地域でも盛り上がって行って、より広く市全体として盛り上がっていき、広がりを見せるのかなと思うんですけども、その告知の仕方というか広げ方というのが、この冊子の形だけなのか、その冊子で出すということが広告としていい、それが一番広く認知を広げていく形として正しいのかなというのが、ちょっと気になる点ではありました。

○会長

ありがとうございます。その辺はいかがでしょうか。

○補助事業者

近江食材マップ&カレンダーなんですけれども、当初の目的として、まず、近江食材でまずどういった食材があるかということから、地元の方から、また観光客そして料理人

も、3年前の段階では知らない方が多いということでしたので、まずは冊子にして、調査する形で表に出していこうということで、この冊子をつくらせていただいております。食材だけではなくて、近江食材を使っている店舗も記載しておりますので、今こちら置かせていただいているのは、観光客向けということで、観光案内所さんでしたり会議所でしたり、あとは宿泊、ホテルさんのほうにも配らせていただいているのと、掲載している店舗のほうにも置かせていただいておりますので、観光客でしたり店舗に来られたお客様、あとは飲食店の方々にも、どういった食材があるかということで、広めていければというふうに考えております。また、今後の流れとしましては、今ちょうどJAさんとも連携はさせていただいているのですけれども、いろんな食材がある中で、まだまだ料理人の方々も知らないところもありますし、どこで買えるかというところもあります。また、彦根においては、トマトとか梨とかはすごくたくさんとれ過ぎるものもあるんですけれども、その一方で、とれ過ぎると完熟栽培といいますか、結構、完熟した状態で提供される農家さんが多いので、そういったところに関しては、もうJAさんと料理人を結ぶようなコミュニティを、近江ツーリズムボードのほうで今作り始めています。直接こういうものがいっぱいとれるから、こういう形でたくさん使ってほしいという、コミュニティの場を提供させていただくような今、仕組みづくりをつくらせていただいたり、あとはJAさんのほうからおっしゃられているのは、彦根は少量多品種ということで、この冊子にも載っていないようないろんな食材もつくってますので、それは料理人さんとかこういうものが欲しいということでしたら、JAさんを通して、農家さんに、こういうもの要望があるからつくってほしいというような、連携の仕方もできるというふうに聞いておりますので、まずは近江ツーリズムボードの中で、料理人を集めた美食研究会というものも発足しております、それぞれ近江ツーリズムボード、JAの窓口になった料理人と農家さんなども、橋渡しのようなものをしていければというふうに考えております。

また、昨年度まで3年間にわたり東京の料理人、星のついた料理人の方にも、料理セミナーを通して、この彦根には計9人来ていただいているのですけれども、地元の料理人の方々に、近江食材をうまく活用した料理方法を教えていただくだけではなくて、生産地視察という形で、多賀ごぼうの視察でしたり、多賀にんじんの視察、また、アユの生産場とかも見に行っていていただいてまして、気に入った食材があれば、東京でも使っていただくような橋渡しの場もさせていただいております。例としましては、もうアユでしたら築地のほうに、今、生きた小アユを1匹100円で卸しているのですけれども、生きたまま揚げ

るとすごく新鮮なものを東京でも食べれるということで、すごく好評でして、東京の星のついた料理人の間ではネットワークが広がって、すごく今、彦根のアユはおいしくて有名ということで広がっております。また、他の料理人の方は、甲良町のイチジクの生産地にも見に来られた際は、イチジクではなくてイチジクの葉にすごく興味があるということで、お肉にイチジクの葉を巻くと、すごく香りが豊かになるということで、今、1枚10円で東京の料理人のほうに送らせていただいたりもしてますので、そういうところで地元だけじゃなく東京のほうにも、近江食材を発信できるような仕組みづくりということで考えております。

○会長

ありがとうございます。

発信して、それを地元を食べにくるということで、今度は入込客数につながってくるようなイメージかなと思いました。ほかにございますでしょうか。

○委員

今いろいろと提案されている、この美食都市推進事業によって、この観光入込客数の問題ということになっているんだろうと思うんですけども、今ご説明いただきましたように、いろいろと発信をしているんですよということで、状況は大体わかりました。

ただ、先ほど言われていたように、いろいろな観光関係の店舗に置いてますよということからすると、少なくとも外部からの観光客を入れ込まなければいけないということになるわけですから、やっぱり発信をどういうふうにしていくのかというのが、僕は問題なのかなというふうに思っています。今後こういうふうな方針をもってますから、引き続き支援をしていくんですよという、まとめ方をしなければいけないんじゃないかなというふうに思っています。なので、先ほど言われていたように、目玉的なものがいろいろあったから、このときは結構増えてたけれども、去年は天候的な問題もあってということも、そこも承知はしているので、例えば、職業訓練の関係で、なかなか今伸び悩んでいるというところがございますので、職業訓練のアンバサダー、大使を立ててPRをしていこうというふうな、そういうふうなこともやっております。そういった具体的なそういったものをお示しいただくことによって、○となるんじゃないかなというふうに思うんですけども、いかがでしょうか。

○会長

それは何かございますでしょうか。今後どういうふうな展開というか、あるいは委員の

ほうからセッション、何かお願いいたします。

○補助事業者

発信の方法としましては、直近で申しますと、美食ガーデンの継続という流れで、本年度9月8日に、びわ湖クラフトビール祭りというものを開催させていただきます。こちらに関しては、ビールだけではなくて近江食材を使って、滋賀県でつくられているクラフトビールに合うお食事を提供するというので、近江食材の発信につながればなと思っておりまして、こちら1カ月前にフェイスブックで告示させていただいたのですが、約6時間ぐらいで100「いいね」がついて、今、1カ月たった現在は、3,000弱ぐらいの方から「いいね」でしたり参加するというので、全国から反響をいただいております。確かにイベントに関してはちょっと天候とかも左右されてきますんで、直接的な入込客数にはつながるかと思うのですが、発信という方法ではアンバサダーとかもお声はいただきましたが、現在考えているのは、近江食材のブランド化ということで、先ほども申しましたとおり、生産者さんと料理人をつないで、まずは、その料理人の方々に、近江食材を使ってそれぞれの個店で何か料理を作ってください、ここに来てしか食べれない料理という形で打ち出していきまして、雑誌等の媒体を使って発信していければとは思っております。

○会長

結構、大学も発信、困っているんですけども、書いたものだけを配るというのはなかなか見てくれない。例えばインスタグラムでおいしそうな写真をぽっと発信すると、これ食べにいきたいということになればですね、かなり人が来る可能性も十分考えられるかなと思います。だから、そういう発信の仕方、お金かけずにいかに発信するかというのを考えるのが、ポイントかなという気はいたします。

何かほかにご意見ございますか。どう評価するかというのは非常に難しいですね。

○委員

交付金実施計画はすごくたくさん書いてあるんですが、結果報告の事業効果が5、6行ぐらいです。こういうことをやってきましたということ、きちんと事業効果のところ述べていただいて、そこで一定の実績があれば、効果があったと判断できると思います。先ほどからの説明で、結構ご説明いただいたので、そこをもう少し事業効果のところ、ちょっと親切に記入いただいたら、こちら側としても快く事業の評価に○にできるんじゃないかなと思います。十分ご説明いただいたので、今やっていただいていることはもう十分理解しましたので、せめてちょっと事業効果のところを、こういうことをちゃんとやっ

てますよということを入れていただけたらどうかなと思うんですが。

○会長

ただいまのご提案というところいかがですか。

○事務局

今、委員の皆様からご指摘いただきましたとおり、もともと資料3のほうで実施計画をあげてまして、こういうふうな経費を、今回、事業しますというふうな形でさせていただいてます。それに沿った形で、この実施計画の例に沿って、こういうことをしたというようなことと、それと再三ご指摘ありますように、この事業についてどういうふうな状況だったかというのは、もう少し具体的な理由を示したいと思います。ちょっと今回、資料4につきましては、ちょっと今、口頭では説明させていただきますけれども、この資料としてご判断いただくことがちょっと今しにくい状況です。また、書面でもう一度審査していただくような形でお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○会長

わかりました。ということで、そしたらこのところ今後の方針理由と、その辺をもう少ししっかりとつくっていただいて、書面で皆さんに資料をお送りいただきたいと思えます。ここでの総意は、基本的にはしっかりとベースを掲げて着実に進行していく。ただ、それにおいてこの客数のKPIに結びついてないところを、いかに今後考えていくかというのが一番ポイントになるんじゃないかと、そこをしっかりと将来に向けて手当をしていただければ、KPI値はそれなりに落ち込んではいけるけれども、将来への展望は開けるというふうな判断だなと思えますけど、いかがでしょうか。補足あるいはご異議があったらご発言いただきたいですけれども、そのような認識でよろしゅうございますか。

なかなか入込客数いろんな要素が絡んでまいりますので、この美食だけの話ではなかなか難しいかなというところがあります。あとと思うのは、もう少しホテルも巻き込んでうまくやれば、もっと発信できるんじゃないかなと思います。何かこれ今も見ていると、すごく受け身的というか、あるから使ってくださいねということじゃなくて、もっと積極的に料理ショーをやって仕かけていったらいいんじゃないかなと思ったりもしています。彦根でもっとやれるんじゃないかなという気がします。

もう一度、しっかり書き込んでいただいて、皆さんのところに送っていただいて、どう評価するかということで取りまとめ、それで最終的には、次回の8月23日に確認するというところでよろしゅうございますか。

○事務局

書面のほうで皆様のご意向を確認させていただきまして、それで最終的にどうなったかということ、23日に冒頭でご説明させていただければと思います。

○会長

そういう形で、これは評価するというにさせていただきたいと思います。

何か補足でご発言ある方はお受けしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

この議題につきましては、評価については、以上とさせていただきます。

それでは、これをもちまして、本日の次第にありました、議題の審議は終了とさせていただきます。皆様のご協力が無事に議事が進行することができましたので、ありがとうございます。

それでは、進行を事務局のほうにお渡ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

議題1でもご説明させていただきましたとおり、今後の予定につきましては、8月の23日の金曜日に第2回の協議会を開催させていただく予定でございます。第2回の協議会では、今回、積み残しになっている分を報告させていただきますのと、30年度のKPIにつきまして、皆様にご評価をお願いいたします。

それでは、これにて会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

(終了)